

藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。

本稿ではその模様をお伝えいたします。

八月、第百十七回藤樹人間学塾を開きました。参加者は八人でした。

今回は『中庸解』第二十六章の後半。大意を次のように話しました。

高島藤樹会の活動

「天地の道」は、至誠の道であり、純一至善である。これは、大宇宙と同義である。だから広く、深く、高大で、光明で、悠遠で、長久。目に見えないが厳然として存在する大いなるはたらきである。

いのちの基本は呼吸である。人が至誠であればやむことがない、誠の心が大事と説明しました。

参加者からは「目に見えない力を感ずることができれば、健康や幸せに結びつく可能性が高まっていくと思った」、等の意見、感想をいただ

きました。

十月、第百十八回人間学塾を開きました。参加者は十一人でした。

今回は『中庸解』第二十七章の上段です。大意を次のように話しました。

「聖人の道は大宇宙と軌を一にしている。聖人はなかなか現れないが、大宇宙は聖人の現れるのを待って、大いなる力を発揮する」

二千五百年〜二千年前に釋迦、キリスト、孔子という三大聖人が現れ、後世の精神世界にはかり知れない影響を与えました。

三大聖人をはじめ多くの聖人が現れなかったら、人類は、愛や慈悲、思いやりなどの優しい心の大切さを



知ることなく、戦争に明け暮れてとつこの昔に消滅していたことでしょう。今、こうして聖人の尊い教えを学び、お互いに一歩ずつ実践していきたいと思います。

参加者からは「体認するためには、行動が重要だと改めて思った。行動のためには、まずはこの塾に参加することは大きな意義があると思つた」等の意見、感想をいただきました。

十一月、第百十九回人間学塾を開きました。参加者は七人でした。

今回は『中庸解』第二十七章の中段です。大意を次のように話しました。

「故に学者・教養人は、学問の本然である徳性を尊んで知識と徳を磨く。この徳性は広大なもので本来、天とつながって高明であり、利己心を取り去ることにより中庸の境地に至る。陰徳を十年、二十年と続けてようやく徳のある人になれるということでしょう、と述べました。

そして大谷翔平選手の超進化の話をしました。・・・なかなか大谷選手が、私たちが「有限の人生をいかに生きるべきか」を考える時に、大いに参考になると思うと述べました。

参加者からは「あの大谷選手にも苦しい時があつて、それを乗り越えてきたというお話を聞いて、私も困難があつたがそれを乗り越える力を得た」等の意見、感想をいただきました。

十二月、第百二十回人間学塾を開きました。参加者は十一人でした。

今回『中庸解』は、第二十七章の下段で最終です。大意を次のように話しました。

「教養人は徳性を尊ぶゆえに上の地位にいても偉そうにせず、下の地位になつても無駄な反抗はせず、道理の通る時世であれば互いに志を立てて徳のある行動をし、道理が通ら

ない時世であれば自分の身を修めて時節の到来するのを待つ。詩にも言われている。良知の本体の明が大宇宙とつながっているその身体を守る」と。

この節は人道を説いているので、聖人の具体例として『代表的日本人』があり、それについて、「致知」で堀義人氏と数土文夫氏が対談しているものを紹介しました・・・。

また同じく「致知」に掲載された田坂広志氏の「いまを生きよ、いまを生き切れ」を紹介しました・・・。

私たちは有限の命をいただいで、生かされています。だから「生きていくだけでも言葉に尽くせないほど有り難い！」という感謝の心と「逆境でも自分には克服できる力がある」という絶対肯定の精神をもって一日一日を大切に生き切りましようと思つた。

参加者からは「改めて生きていることに感謝しながら一日を大切に生きたいと思つた」、等の意見、感想をいただきました。

人間学に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

藤樹人間学塾 今後の予定

一月五日(土)、三月五日(土)、
四月二日(土)、五月七日(土)

■時間 (原則) 十五時〜十七時

■場所 (原則) 安曇川公民館